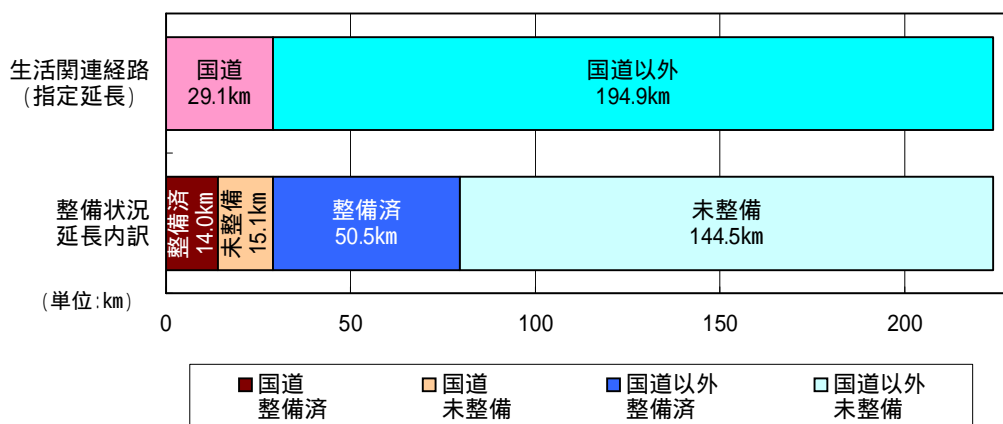


2-2-5 歩行者

バリアフリー化や冬期路面对策などの課題が残る歩道整備。

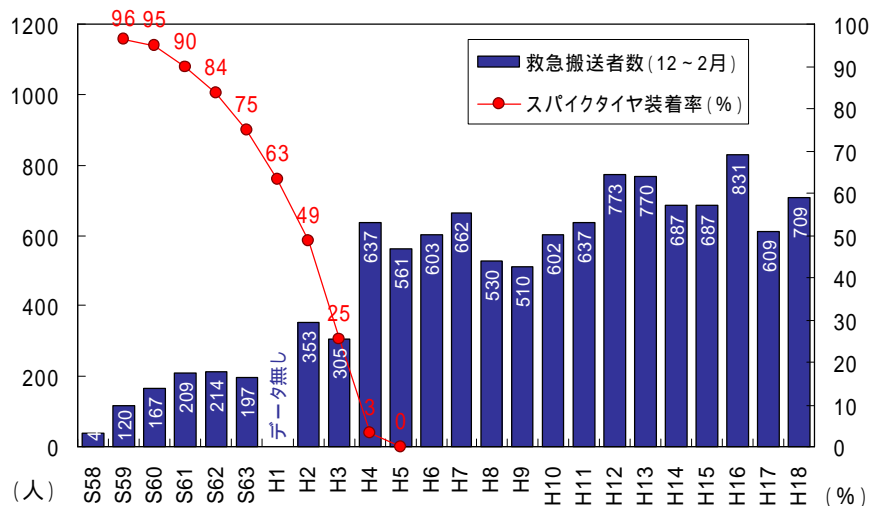
- ・ 歩道のバリアフリー化に取り組んでいますが、整備率は未だ低いです。
- ・ 冬期はつるつる路面による転倒事故が多く発生しています。



生活関連経路：生活関連施設（高齢者、障がい者等が日常生活又は社会生活において利用する旅客施設、官公庁施設、福祉施設その他の施設）相互間の経路。

資料：新・札幌市バリアフリー基本構想（2008年）

図 2-81 歩道のバリアフリー化整備状況



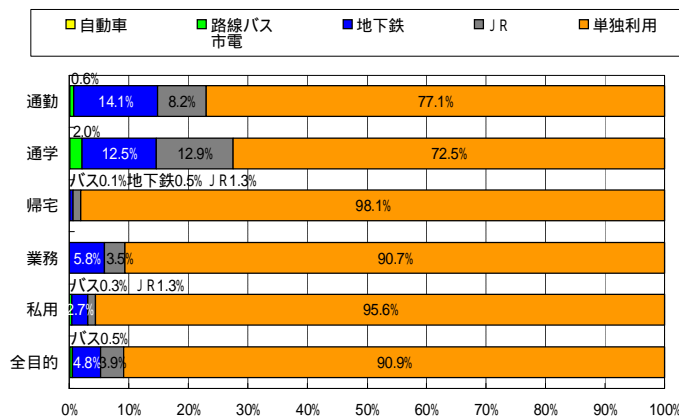
資料：さっぽろウィンターライフ推進協議会サイト

図 2-82 札幌市内冬期転倒事故の救急搬送者数とスパイクタイヤ装着率の推移

2-2-6 自転車

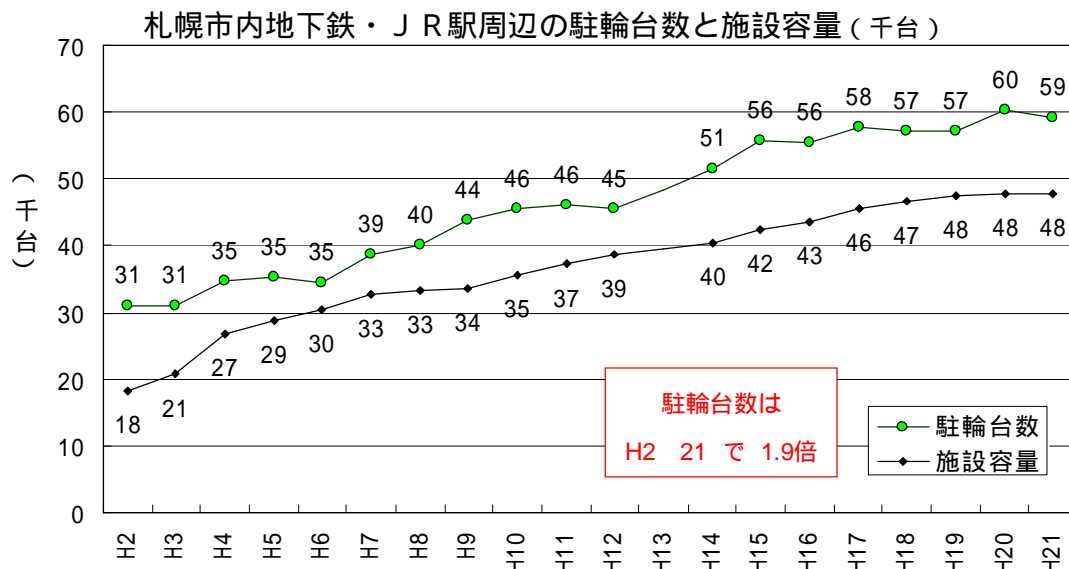
都心部や駅周辺における自転車が増加し、駐輪場不足が課題。

- ・ 自転車は、都心部や駅周辺における交通手段として増加傾向です。(前述)
- ・ 通勤、通学では、自転車利用後に地下鉄、JRに乗り継ぐ需要が25%前後見られます。
- ・ 都心部への乗り入れ、あるいは駅で乗り継ぐ自転車が增加するなか、駐輪場が不足している状況にあります。



資料：道央都市圏パーソントリップ調査（2006年）

図 2-83 目的別自転車利用後手段の構成比（札幌市内着自転車集計）



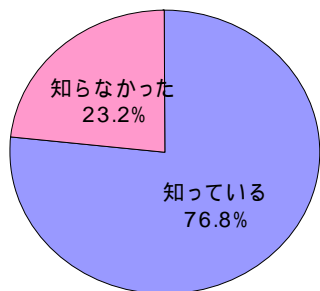
資料：札幌の都市交通データブック 2010

図 2-84 駅周辺での駐輪台数と駐輪場整備状況

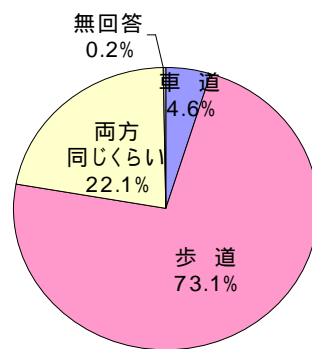
自転車の車道走行ルールを知っているも、危険の不安から歩道を走行。

- ・ 自転車は車道の左側通行が原則であることを認識しているものの、車道では自動車との交錯の危険を感じるため、歩道を走行している利用者が多いです。

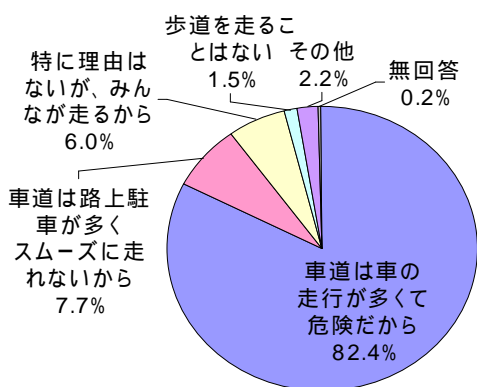
Q. 自転車は原則、車道の左側を通行しなければならないことについて



Q. 普段、自転車を走行している位置



Q. 歩道を走行する理由



資料：2007 年度札幌市市政世論調査

図 2 -85 市民の自転車利用の現状

歩行者・自転車と自動車の事故や、歩行者と自転車の接触の問題がある。

- ・ 交通事故死者は、人対車両事故によるものが 50%、自転車×車両事故によるものが 12%を占めています。
- ・ 事故数として顕在化していませんが、歩行者と自転車の接触も課題です。

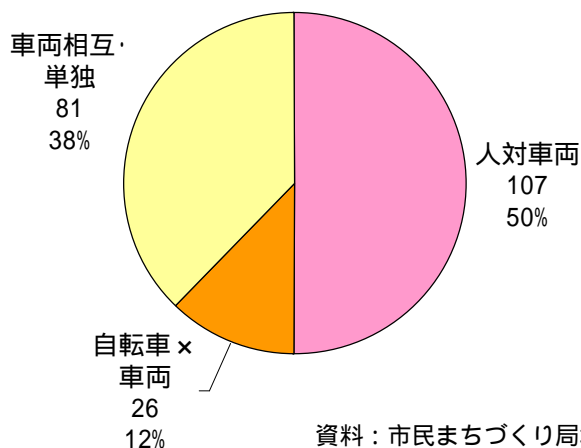


図 2 -86 交通事故死者の事故類型構成比 ～過去 5 年間 (2004 ~ 2008 年)

あなたが歩道を歩いていて、走行する自転車を迷惑 (または危ない) と感じたことがありますか。(複数回答可)

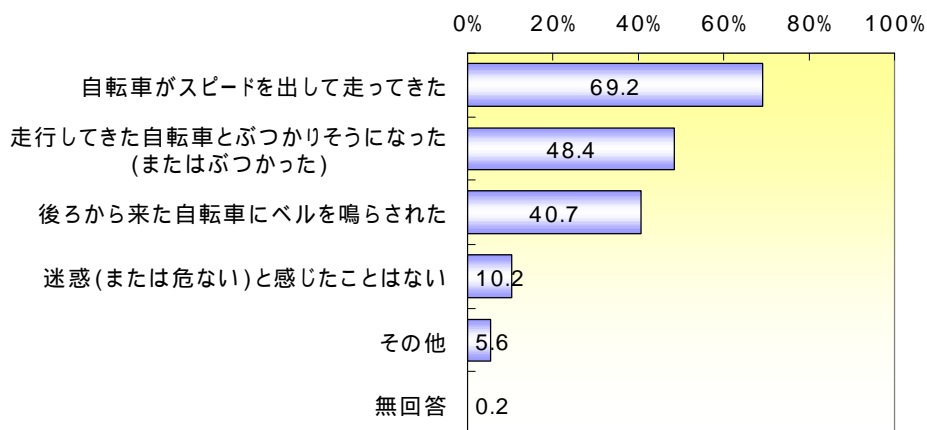


図 2 -87 自転車に迷惑または危険を感じた経験の有無